

第1回 沼津市リノベーションまちづくり戦略会議

沼津市では、平成27年度より「リノベーションまちづくり」に取り組んでいます。今年度は、本市でのリノベーションまちづくりの方向性や重点エリアなどを議論する場として、実行力がありパブリックマインドを持つ民間の方々を委員に選び、民間主導・公民連携型による「沼津市リノベーションまちづくり戦略会議」を開催しています。今回は、その第1回目の会議を開催しました。

本会議は、オープンな議論の場とするため、完全公開で行い、誰でも参加できるものとしています。

日 時 平成28年5月20日（金）18:00～21:00
会 場 プラサヴェルデ1階 コンベンションホールA前 ホワイエ

<次第>

- 1 挨拶
(沼津市 めまづの宝推進課 課長 尾和富美代)
- 2 リノベにまつわる沼津の現状
(沼津市 めまづの宝推進課 植松伸浩)
- 3 不動産オーナーと家守による北九州と豊島区の実践
(嶋田洋平委員)
- 4 各委員の取り組み紹介
- 5 不動産オーナーと家守が一緒に行うリノベーションまちづくり
(嶋田洋平委員)
- 6 ディスカッション

<登壇者> (敬称略)

嶋田 洋平 ((株) リノベリング 代表取締役)
江口 亨 (横浜国立大学大学院准教授)
後藤 行宏 ((株) ゴトー 代表取締役)
杉澤 教人 ((株) 大志建設 代表取締役)
山田 知弘 ((有) 日の出企画 代表)

<当日の様子>



まず最初に、主催者の挨拶では、本市が取り組んでいるリノベーションまちづくりの今年度の取り組み内容などを紹介し、続いて、市の担当者より、本市のリノベーションまちづくりの現状や事例、市の財政状況、本戦略会議で議論したいことなどの説明を行いました。

「不動産オーナーと家守による北九州と豊島区の実践」と題して、(株)リノベリング代表取締役の嶋田洋平氏による、リノベーションの事例等の説明の後、その他の委員より、それぞれのリノベーションまちづくりへの想いや取り組み等の紹介がありました。後藤委員からは、沼津の潜在的な魅力の活用、新しい動きや発想で、このような流れを続けてほしい、などの発言がありました。江口委員からは、リノベーションの不動産活用としての利点の説明や、このまちづくりが新しいまちを考えていくきっかけになればよい、などの発言がありました。杉澤委員、山田委員からは、沼津で自らが実践しているリノベーションを用いた事業についての紹介がありました。

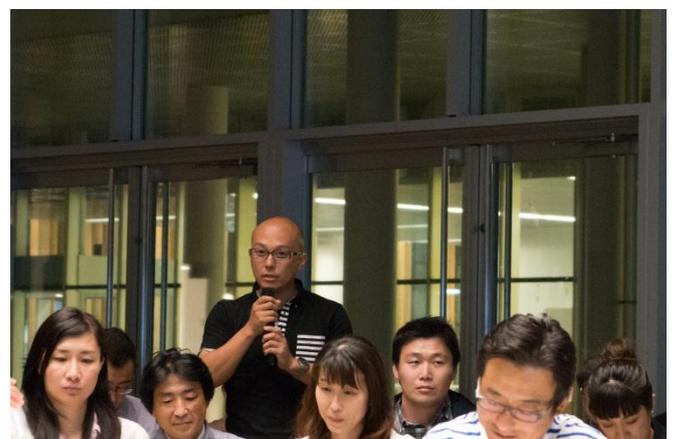
「不動産オーナーと家守が一緒に行うリノベーションまちづくり」と題して、嶋田氏より、家守やリノベーションの概念の説明や、絵に描いた餅のような実現プロセスのない構想ではなく、構想と実現を合致させて民間の力で進めていくことが必要との説明がありました。



その後、委員を含めた市内外から約100名の参加者によるディスカッションでは、多数の発言がありました。

(発言の一部)

- ・沼津市民が思うほど、沼津の街はダメではないと思っている。
- ・沼津には海、狩野川、香貫山という、市民の誇りとなるものがある。
- ・ダメダメという人が多いということ自体も、チャンスと捉えられる。ダメからちょっと良くなることで突然、意識が変わることもある。
- ・東京に出てから沼津の良さがわかった。
- ・最近沼津に戻ることも多くなり、沼津で何かやりたいと考えている。
- ・地域を愛さなければ、変わっていかないと気づき、地域の人と触れ合いながら、地域の魅力を発信している。
- ・まちなかに目を向けることも大切だが、その周辺にも目を向けたい。
- ・大人だけでなく、これから育っていく子供たちが楽しむことで、沼津が変わっていくのではないか。
- ・自分の物件の周辺から、変えていきたいと思っている。
- ・現在、15個ほどプロジェクトを考えている。挑戦したい人がいれば、一緒にやりたい。
- ・高校生に、土日に商いを経験させることで、卒業してすぐに起業する子たちが出て、沼津に定着する人口が増えるのではないか。
- ・先人たちが築いてくれたものと、これからの若者が生むものを組み合わせる新しいまちづくりができればいいと思う。
- ・人のリノベーションも必要。
- ・実現したい人たちが何かを実現できる場にしていきたい。
- ・沼津もこれから変わっていきそうな気がした。
- ・みんな沼津が大好きだということ。沼津を本当に愛していることが、一つの宝である。
- ・何かやってみたい人がたくさんいて、舞台さえあれば、ものすごい勢いで、火がついて意識が変わっていきだろうと感じた。
- ・今回の戦略会議をきっかけに自分自身に無意識にかけていたブレーキを解除し、自分の可能性を大いに探ってもらいたい。



次回は7月14日(木)の予定です。詳細については、ホームページ、フェイスブック等で発信します。